

人間として生きるとは

人間として生きていくということは、容易なことではありません。修羅場をくぐり抜けて生きていかなばならないものなのです。テレビや新聞を見ると、毎日のように悲惨な、こんなひどい、というようなことが報道されています。

自分の心が作ること

しかし、どれもこれも人間のなす業であります。人間のなす業というのは、人間の心がつくっていくものなのです。そのありさまを、「お経」には、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上と六種類に区分けしています。これを六道と名づけています。人間は、この六道を行ったり、来たりして生きているのだというのです。まじめに自分をふりかえると、よく理解できることであります。